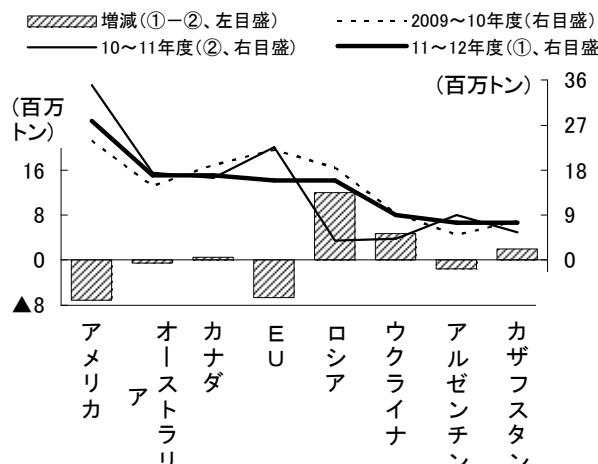


## 小麦需給逼迫懸念

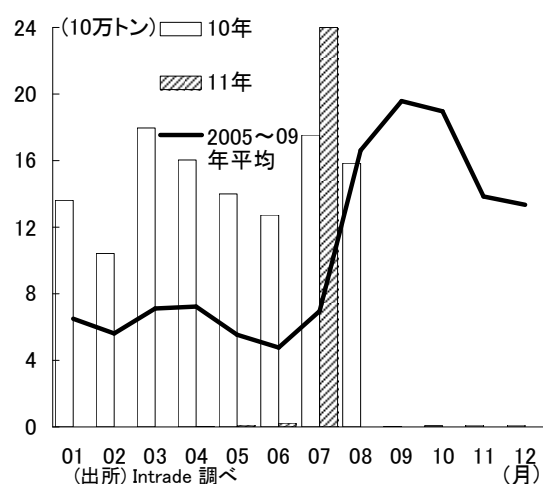
### ～ ロシアの輸出余力懸念と中国の輸入増リスク ～

- (1) 世界の穀物需給に関する米農務省の最新予測によると、2011年度の小麦需給は昨年対比、生産増加とそれを受けた輸出の増加によって緩和に向かう見通し。しかし仔細にみると、とりわけ輸出入において楽観出来るか否か依然不透明な状況。まず輸出では昨年度農地が泥炭火災に見舞われたロシアが好調だった09年度の生産水準をほぼ回復し、洪水に襲われた米国と旱魃が起きた欧州の輸出減をカバーする見通し（図表1）。
- (2) そこで、ロシアの小麦輸出量をみると、禁輸解禁に伴って本年7月大幅に増加（図表2）。増加量は昨年比65万トン、05～09年の5カ年平均比で171万トン。仮に年間輸出量が16.8百万トンに達した09年のペースで8月以降推移する場合、年間の輸出量は15百万トン前後に。米農務省予測は16百万トンの見通し。単純に差し引きすると1百万トン前後不足の可能性。
- (3) 一方、輸入サイドでは、主要需要エリアである北アフリカが昨年比▲3百万トン、中東が09年比▲5百万トンの輸入量の見通し（図表3）。両エリアで供給不足の懸念。本年初来、同地域に広がった中東の春の動きは食糧、とりわけ小麦不足が根因。
- (4) 加えて中国。米農務省予測では本年度の中国は、生産量増、輸入量ほぼ横這いの見通し。しかしすでに輸入増加の兆し（図表4）。小麦以外にも米、さらに大豆の輸入量が例年比増加。降水異常が主因。小麦生産の華北エリアでは6月以降平年を大幅に上回る降水。一方、米作の華南エリアでは7月以降一段と深刻な降水不足。小麦にとどまらず世界の穀物市況は8月に入り再び強含む展開。上記に照らせば今後も引き続き価格上昇圧力が作用する懸念大。

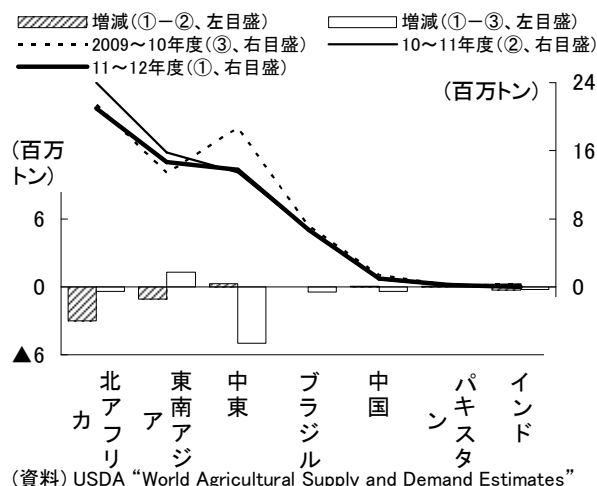
（図表1）主要小麦輸出8カ国の小麦輸出量



（図表2）ロシアの小麦輸出量



（図表3）主要小麦輸入国・地域の小麦輸入量



（図表4）中国の2011年穀物輸入量(00～09年比)

